

# 雪予報 5<sup>+</sup>四方に細分化

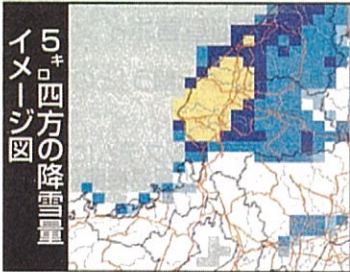
## 気象庁 除排雪活用を期待 来冬から

気象庁は、大雪の際に特定区間で車のタイヤチェーン装着を義務付ける国土交通省の方針に絡み、降雪予報の精度を高めて交通障害の防止に役立てる技術開発を進めている。日本の各地域を5<sup>+</sup>四方ごとに細分化して積雪量を観測できる新たなプログラムを開発、来冬からの運用を見込む。同様に5<sup>+</sup>四方で1時間ごとの降雪量を6時間先まで予測する「降雪短時間予報(仮称)」も2021年度から導入する方針で、県内の識者は「除排雪の運用にも活用できるのでは」とみる。

(佐々木大輔)

## 「1時間ごと」21年度から

※気象庁が福井県をモデルに作成したイメージ図を加工。黄の部分が周辺より降雪量が多いことを示している。



大雪による車の立ち往生対策を協議した国交省の有識者会議は5月の中間取りまとめで、チェーン規制に加えて降雪予報の拡充も要望。提言を受け、気象庁が対策の検討を進めている。

気象庁は現在、地域気象観測システム(アメダス)などの観測所ごとに積雪深や降雪量を測り、公表して

いる。県内は「青森」「酸ヶ湯」「弘前」など15カ所で観測しているが、さらに細分化した地域ごとの観測が必要と判断。観測所ごとの「点」による方法を、5<sup>+</sup>四方の「面」に改良する開発を進め、「来冬から利用できるめどが付いた(気象庁担当者)という。

| 導入予定  | 現状                          |
|---|-----------------------------|
| 【19年度】解析降雪量(仮称)<br>5 <sup>+</sup> 四方で積雪、降雪量を面的に観測         | ←観測所ごとに測定                   |
| 【21年度】降雪短時間予報(仮称)<br>1時間単位、5 <sup>+</sup> 四方で降雪量を6時間先まで予測 | ←6時間単位、20 <sup>+</sup> 四方など |
| 【19年度】記録的大雪情報(仮称)<br>過去の記録的大雪に匹敵する旨を周知                    | ←特別警報、警報                    |
| 【19年度】3日先までの24時間降雪量予報                                     | ←2日先まで                      |

※導入年度は予定。気象庁の資料に基づいて作成

気象庁が導入予定の「大雪」情報

1時間単位の降雪量を6時間先まで予測できるよう改良する方針。

気象庁は19年度予算の概算要求で、雪の観測や予測に関する技術開発の経費2千万円を計上。予算が付けば、24時間降雪量の予報を現状の2日先から3日先まで延ばせるほか、短時間で豪雪となる恐れがある場合は警報、特別警報とは別に「記録的大雪情報(仮称)」で警戒を促す。

より細かな範囲で予測できる雨と異なり、「雪は気温によってみぞれになったり雨に変わったりと、降雪量の予測が難しい」と気象庁担当者。それでも5<sup>+</sup>四方が導入されれば大雪になりそうな地域や道路を事前に把握でき、迂回などの判断に役立てられるとみる。

青森市の民間気象会社・アップルウェザー社長で気象予報士の工藤淳さん(69)は、雪かきの必要性など市民生活にも活用できる」と指摘。「予報の精度は始まってみないと分からないが、自治体や業者による除排雪のタイミングなど適切な判断に活用できれば良い」と話した。